

# 令和7年度 学校経営計画

## 1 学校教育目標

- ア 知性を高め、豊かな創造力を養う
- イ 健康で自律の精神に満ちた人間性を培う
- ウ 誠実で実践力のある人間形成をめざす

## 2 学校の特徴

- ア 生徒数60名程度の小規模校

本校は、昭和25年に福野高等学校平分校として設立され、今年度創立75周年を迎える。各学年普通科1学級、全校生徒60名程度の小規模校であり、「少人数で授業を実施できる」「一人一人に目がゆきとどく」など小規模校ならではの利点がある。

- イ 一人一人が担う大きな役割

学校行事や生徒会活動では、生徒一人一人がそれぞれの役割を担いながら、全員が一致協力して仕事にあたるという体験を通して、大きな成就感・達成感を味わっている。

- ウ 特色ある教育活動

豊かな自然と世界文化遺産に隣接する本校は、五箇山地域の豊かな文化・郷土芸能を活かした、ふるさと教育を推進していくための環境が整っている。地域との連携を深める象徴的な取り組みとして、毎年5月に小中高合同運動会を開催し、地域住民や保護者も参加する合同演技「こきりこ唄」は地域の大きな賑わいとなっている。また、2年次に台湾への修学旅行を実施し、現地教育機関との交流を行っており、ふるさと教育の国際比較や成果の発信等を行う格好の機会になっている。

部活動では、郷土芸能部が、全国高等学校総合文化祭で最優秀賞・文部科学大臣賞を3度受賞するなど、入賞回数全国一を誇っている。スキー部も全国大会出場の常連であり、数々の入賞を果たしている。また、平成30年度に発足した五箇山ガイド研究会（GGS）は、近くの世界文化遺産合掌集落において本校生徒が外国人を含めた観光客に観光ガイドを行うもので、生徒の表現力・英語力を養うとともに、地元の活性化にも役立つと期待している。これらの活動は、参加した生徒に大きな達成感と自信を与えるとともに、学校の活性化に大いに寄与している。

令和4年度からコミュニティ・スクールとして地域学校協働活動に重点を置いた教育活動を実践している。また、令和7年度には初の全国募集生徒を迎えた。

## 3 学校の現状と課題

地域からの教育活動への期待は大きく、郷土芸能等の活動には地域住民の協力も得られているが、生徒数の減少によりこれまで本校が独自に展開してきた特色ある地域学習の継続が困難になりつつある。また、地元出身生徒の割合低下は、地域連携の希薄化を招く懸念がある。さらに、長年地域に根差した学習を続けてきた地元生徒の中には、本校の教育活動に閉塞感や物足りなさを感じている可能性も指摘されている。コミュニティ・スクールの導入により地域連携を強化しつつ、総合的な探究の時間では地域体験に加え、グローバルな視点を取り入れた探究活動を展開し、生徒の視野を広げる必要がある。

生徒の学力差が顕著になっている現状に対し、個々の能力に応じた授業改善が急務となっている。少人数指導の強みを最大限に活かし、1人1台タブレット端末を効果的に活用することで、個別最適化された学びを強力に推進していく必要がある。多様な進路選択を見据え、早期からのきめ細やかな個別指導を充実させ、生徒一人ひとりの学力向上に丁寧かつ着実に寄り添うことが不可欠となっている。同時に、進路指導においては、国内外の幅広い進路情報を提供し、生徒の多様な可能性を拓く支援が求められる。

概ね生徒は素直で前向きに学校生活・寮生活を送っており、個々に与えられた責任ある役割を全うすることで、着実に自己肯定感を高めている。しかし、小規模校という環境下では、生徒間の人間関係に起因する問題が生じる可能性も考慮する必要がある。様々な教育活動を通して、他者を理解する力や円滑なコミュニケーション能力を育成し、生徒が互いを尊重し、支え合う良好な人間関係を構築できるよう丁寧に指導していく。さらに、本校の教育活動の成果や生徒の成長を、校内のみならず積極的に外部へ発信する機会を設け、生徒自身が成長を実感し、自信を深められるような工夫を凝らすことも重要である。